



「庭園都市・おかやま」の実現

たかやしげお
おかやま 岡山市長(岡山県) 高谷茂男
Shigeo Takaya

その時、歴史が動いた

正直なところ、私が市長になろうとは夢にも思っていませんでした。

平成17年8月、現職の岡山市長が衆議院議員選挙に立候補するため市長を辞任。当時、第三セクター「倉敷チボリ公園」の社長をしていた私は、経済界をはじめいろいろな人に要請され、出馬。市長に当選しました。

その時の岡山市は、国体開催を2カ月後に控え、政令指定都市移行に向けて動き始めた大切な時期であるとともに、待ったなしの行財政改革や長期的ビジョンの不在など、大きな課題を抱えていました。

選挙戦の中で、私は、「経営という視点で自治体運営をする」ことを市民の皆さんへ訴え続けるとともに、大きく分けて二つのことを掲げて戦いました。一つは、都市像のこと。本市には、長期的なビジョンがなく、市長が交代するたびに市の目指す方向性が変わり、本市の将来の姿を共有することができていませんでした。もう一つは、行財政改革。三位一体改革により地方財政は悲鳴を上げており、「今、改革しなくては、岡山市の未来はない」そんな危機感が私にはありました。

共有できるビジョン

就任して早速、市民の方とお約束した長期的なビジョンの策定と行財政改革に着手しました。都市ビジョンの策定に当たっては、構想の段階から市民の目線を大切にし、岡山大学学長を座長とする「岡山みらい会議」や市民ワークショップで議論を尽くし、目指す都市像を「水と緑が魅せる心豊かな庭園都市」と定めるに至りました。

本市には、岡山後楽園という日本三名園の一つに数えられる庭園があります。さらに旭川、吉井川という二大河川があり、とても水と緑に恵まれたまちです。岡山のポテンシャルは他にもたくさんありますが、まずはこの魅力あふれる自然を生かしたまちづくりをしたいと思っています。また、庭園都市というのは、ただ緑が多いというわけではありません。本市は、都市の利便性と自然の豊かさを兼ね備えた都市といえるでしょう。

先ほど申し上げた市民ワークショップでは、「岡山市の長所は何か。何を将来に残したいのか」について語り合いました。その中で、高齢者だけでなく、参加した中学生の皆さんからも、「この美しい環境を未来に残したい」という声があ



政令指定都市移行イベント

りました。市民の皆さんと共有できるビジョンができたのではないかと自負しています。

安全・安心と「夢」実現

しかし、都市ビジョンの推進のためには、行財政改革を断行しなければなりません。当時の本市には、債務負担行為の額を加えると約7000億円もの借金があることが分かったのです。

税金など収入に限界がある以上、それまでに行われていた行政サービスを無条件に継続できるはずがありません。私

は、「企業経営者の視点での自治体経営」にこだわり、まずは、全国で初めて公募による市民評価者を導入した事業仕分けに取り組みました。事業の厳選、集中化、平準化を行い、毎年新規の借入額を150億円程度に抑え、借金を抑制することに成功しました。

採用凍結などにより、平成17年度から22年度までの5年間で職員数を575人削減し、約60億円の財政効果を上げることができたのです。

行財政改革の目的は、市民の安全・安心と「夢」の実現。

最後に

平成17年に市長に就任以来、それまで趣味としていたゴルフの回数も減りました。公務中は、公用車での移動が主であることから、日常では、できるだけ体を動かすように心掛けています。24時間、365日、休みなしの自治体の長の仕事は、まさに体力勝負です。

そして、気力の充実も欠くことができません。私は、常々「自分の任期中のことだけを考えるのではなく、その後のことも考えるべき」との信念を持ち続けてきました。次代の子どもたちにこの美しい本市を引き継ぐため、何をすべきなのか、何をすべきでないのか、自問自答する



ノーマイカーデーに参加する筆者



日本三名園の一つに数えられる「岡山後楽園」